

住環境を豊かにする農業の推進

~~~~~ 都市近郊農業の未来を模索する ~~~~~



整備された親水護岸水路



コンバインによる稲刈り

県営ほ場整備事業（緑農住区開発関連）

椎名地区（千葉市）

千葉農林振興センター

## 1 千葉市の概要

千葉市は千葉県のほぼ中央部に位置し、東京から40km圏にあり、市の面積は272.08km<sup>2</sup>で、耕地面積は4,320ha、耕地面積の内、水田1,070ha、畑3,250haで、水田割合は25%と水田の少ない市です。

総人口は888,735人で、その内農家人口が13,641人であり、農家の人口割合は市の1.5%程度と少ない状況です。総世帯数は、363,684戸で、その内農家数が3,186戸ですが、販売農家数は2,290戸でその割合は0.6%と極めて少なく、市街地の周辺で農業が営まれています。

### (1) 千葉市の農業

専業農家は485戸、第1種兼業農家が296戸、第2種兼業農家が1,509戸で、総農家数に占める専業農家率は15.2%です。

主な経営部門は野菜が多く、続いて畜産や米・花卉となっています。野菜は露地野菜が多く、作付面積は大根・さといも・ねぎ・ほうれん草が多いが、その他にも数多くの品目が栽培されており、畜産は酪農・肉牛が多く営まれています。

農業産出額は、115億1千万円で、その内野菜51億5千万円、畜産32億3千万円、米9億7千万円、花卉8億7千万円となっています。

### (2) 千葉市椎名地区の概要

当地区は千葉市の南部に位置し、南側を市原市に接する旧椎名村に在り、二級河川村田川の右岸に広がる平坦な水田地域です。田面標高は5~16mで水田の勾配は東から西へ1/300~1/1,000(主傾斜1/500)です。

本地区の耕地は整備されたことが無く、道路・水路は未整備のため用水は田越しかんがいで排水は不良、農業機械も思うように進入できず極めて生産性の低い水稲単作地帯でした。

## 2 導入された事業の概要

### (1) 県営ほ場整備事業(緑農住区開発関連) 椎名地区

ア 事業主体 千葉県

イ 受益面積 農地79.8ha(田75.9ha 畑3.9ha) 非農用地20.4ha

ウ 事業期間 昭和63年度~平成11年度

エ 総事業費 1,473百万円

オ 事業概要

整地工 91.7ha (農地79.8ha 緑住区11.9ha)

用水路工 14,142m

排水路工 緑農区 13,424m 緑住区 3,153m

道路工 緑農区 16,249m 緑住区 2,300m

暗渠排水工 75ha

揚水機場 地下水機場 17ヶ所

## (2) 関連事業

ほ場整備により30a区画と多目的利用水田の造成及び用排水路・農道整備が行われ、大型機械化農業の実施が可能になり、国庫補助事業を活用して穀類乾燥調製施設や高性能農業機械を導入しました。

《関連事業一覧》

| 事業名                                               | 事業主体(事業費)               | 実施年度  | 事業内容                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------|-------------------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新農業構造改善事業後<br>期対策<br>農用地有効利用モデル<br>集落整備事業<br>(国単) | 南部ライスセンター<br>(45,815千円) | 平成6年度 | 乾燥調整施設 1棟<br>241.05m <sup>2</sup><br>乾燥調整機械一式<br>乾燥機 5基 他<br>トラクター33ps 2台<br>関連装備一式<br>コンバイン4条刈 3台<br>関連装備一式<br>田植え機4条植え 2台<br>フォークリフト1.5t 1台<br>育苗施設一式<br>パイプハウス4棟 691.2m <sup>2</sup> |
| 新農業構造改善事業後<br>期対策<br>農用地有効利用モデル<br>集落整備事業<br>(国単) | 富岡農事組合<br>(25,338千円)    | 平成6年度 | 地域農業推進拠点施設<br>106.6m <sup>2</sup>                                                                                                                                                       |

## (3) 関連組織

近代的農業の確立・専業農家の経営規模拡大による農業所得の向上・中核的担い手の育成確保を図るため、平成6年に「千葉市南部ライスセンター組合」を結成しました。

また、生活環境の快適性の確立・地域住民の連帯感の向上を目指して富岡農事組合を設立しました。

千葉市南部ライスセンターは、基盤整備事業終了後のほ場の運用方法を検討する中で、当時8戸の農家が集まって営農組合を設立し、



南部ライスセンター

新農業構造改善事業後期対策を活用して、稲作の耕起・田植え・収穫及び調整



地域農業推進拠点施設

出荷の大型機械化設備を導入したもので、その中核となる施設がライスセンターとなっています。設計処理面積は25haで、育苗施設は10ha対応となっており、現在は10名の農家で運営しています。

富岡農事組合は、生活環境の快適性の確立や地域住民の連帯感の向上を図るために25戸の農家で設立され、地域農業推進拠点施設が富岡町に設置されました。

### 3 事業の成果

#### (1) 営農組織の設立

椎名地区では、基盤整備事業を契機として平成6年度に南部ライスセンター組合が組織されました。第2種兼業農家が70%近くを占める当地区において、土地改良事業終了後の農業機械施設の過剰投資の防止、生産コストの低減、省力化、並びに農地の有効利用を目的として設立されたもので、今年度で稼働10年目となります。現在の稼働実績は、育苗3,568枚、田植え15.9ha、刈り取り21.8ha、乾燥調整1,708俵です。今後も委託希望面積が増えることが予想され、ますますライスセンター組合の存在が重要になると考えられます。

#### (2) 労働時間の短縮

椎名地区の基盤整備前の水田は、未整備の湿田で大型機械の利用が困難でした。

基盤整備により水田は30a区画になり、用排水路・暗渠排水が整備されて、ほ場の乾田化が図られた結果、大型機械が導入で



大型コンバインによる稲刈り



きるようになり作業時間が大幅に短縮しました。ライスセンター組合のha当たり作業時間は169時間で、計画時の現況597時間と比較すると72%の省力化が図られています。

### (3) 居住環境の整備

平成5年から平成14年にかけて、地域用水環境整備事業（杉山地区）により、親水護岸による杉山用水路の整備、カラー舗装による農道整備及び親水公園



親水公園

園（ふれあい公園）の設置など、地域住民の憩いの場、心のふるさと、原体験の場としての田園環境が保たれており、農業地域と都市地域の調和の取れた土地利用が行われています。

また、古市場町には基盤整備事業により創設された非農用地に集会所が建設され、地域生活の拠点施設として活用されています。

## 4 今後の課題と改善方向

これからは、栽培者の高齢化・米価の低迷に伴い、作業委託面積の増加、耕作放棄田の増加が予想されます。

南部ライスセンター組合では年々作業受託による面積が拡大しており、地域農業の担い手として重要な役割を果たしていますが、組合員の年齢が高いため時代を担う後継者の確保が課題となっています。

また、基盤整備事業によりほ場条件が整い作業時間が短縮されましたが、他作物の導入や生産調整の取り組みが進んでいない問題があります。この理由としては、都市近郊のため他産業への従事者が多いこと、農業従事者の高齢化が進んでいること等による労働力不足が挙げられます。

今後は、畑作物・転作作物の導入も含め、適切な品目の選定、地域条件を活かした経営の確立を検討することが重要となっています。